

校風に育まれた豊かな個性

私たちが通っていた頃、ちょうど入試で独自問題が出るようになりました。課題も入学前からしっかり出され、勉強についてはずいぶん鍛えられる環境でした。ただ、生徒が思い思いの学生生活を送れる選択の自由は広かったのではないかと思います。

入学して最初に先生から「みんなを大人として扱う」と言われたことが印象に残っています。それからの3年間、私たちは大らかで温かく、時に厳しい環境のもとで個性豊かにのびのびと過ごしました。その分いたずらや勝手な行動をして先生方にご迷惑をお掛けしたと思いますが、今思えば安全管理の中でも色々な経験をさせて頂き感謝です。

そんな高校時代を通して自然に友人たちの「多様性」を認め尊重し合うことを学びました。進路も東大京大や医学部を含む勉学の道、美術や音楽などの芸術の道、また企業などへの就職の道など様々で、歩み方や歩むペースもそれぞれでした。むしろそれが面白く、多様な道でのびのび生きている同級生たちと仲良く刺激しあえる関係が今日まで続いています。

在学中に起こった地震で廊下の塀が崩れた階段校舎も、私たちが卒業すると同時に役割を終えることとなりました。最後に教室を後にする日、友人と一緒に黒板の下の方にメッセージを残したのが良い思い出です。

(平成 17 年卒 川高 (旧姓 守屋) ゆき)



ああ、三校戦

僕らの頃は岡山市内に有る県立普通科、朝日、操山、大安寺の3つの高校が総合選抜だった。総合選抜という言葉は、在校生にとっては耳慣れないかもしれない。普通科の受験生を成績によって3つの高校に振り分け、各学校の学力を揃えようと言う制度だった。だからこの三校は言わば姉妹校で、何かにつけて一緒にイベントを組んでいる。その一つが「三校戦」だった。朝日、操山の2校だった時は「朝操戦」と呼ばれ、のちに県立普通科が増えるにつれて「四校戦」「五校戦」と名前を替え、総合選抜の制度が無くなる1999年まで続いた。

会場は岡山県総合運動公園。開催時期は5月だっただろうか。競技会と言うよりもお祭りの感覚が強かったが、たとえ3校とは言えどんケツはいやだ。勝たなきゃ面白くな

い。と言う訳で応援合戦も盛り上がった。自校の応援はもちろん、対戦相手を称える友情応援、エールの交換が特色のひとつ。ただそんなにたくさんの応援団が日頃居る訳では無い。正規の応援団員による「徴兵」や「応召」と言った具合に駆り出された俄か団員が声を張り上げる。まだ女子は半そでミニスカートだから良い。男子は黒の学生服が必須だ。初夏の日差しは強く、服の中は汗だく。今なら熱中症を心配するところだが、その頃そんな言葉は無い。ただ本人は場の雰囲気陶酔して暑さも汗も心地よく、朝日の勝利を自分の背に負った気になっている。今思い出せば青春そのものだった。ああ三校戦。懐かしのその頃に帰してやると言われたら、きっと断る。

(昭和 47 年卒 小松原貢)



思い出のルーズソックス

私の在学中(平成18年まで)、朝日高女子の制服の靴下は主流がルーズソックスでした。当時都会ではすでにルーズソックスが廃れ、岡山市内の女子高生の間でも紺のハイソックスが流行っていましたが、朝日高校の一部の女子もそれを取り入れていましたが、西原先生からきつく紺の靴下禁止を言い渡され、やむなく、白の靴下か白のルーズソックスにしていました。

しかし、私たちの卒業後から、ルーズソックスを履く女子生徒を見る機会が激減し、みんな白のハイソックス、くるぶしソックスになっているのを目にし、一個下の後輩たちはこんな真面目だったのか…と驚いた記憶があります。

私たちの卒業アルバムの大半にも、階段校舎とルーズソックス女子が写っているかと思いますが、新校舎への移行に伴って、ルーズソックス文化は消えていったのかも知れません。

(平成 18 年卒 宇佐美祐子)

